

【様式】第2号の1～4－②

専門学校

(注) 様式第2号の1－②

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1－①を用いること。

(注) 様式第2号の2－②

※様式第2号の2－①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

(注) 様式第2号の4－②

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4－①を用いること。

(申請書を作成する際には、1頁目を削除すること)

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	岡山県理容美容専門学校
設置者名	学校法人 岡山理容美容学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
理容美容専門課程	理容科	夜・通信	51	6	
		夜・通信			
理容美容専門課程	美容科 美容コース	夜・通信	51	6	
	美容科 トータルビューティーコース	夜・通信	50	6	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.oka-kenribi.ac.jp

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	
役割	

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
（備考）		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	岡山県理容美容専門学校
設置者名	学校法人 岡山理容美容学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
理容美容専門課程において授業計画書を作成している。 授業計画は理容師・美容師国家試験合格基準を到達目標とし、必要に応じて教育課程編成委員会等において協議している。 授業は授業計画書に沿って1単位時間50分を標準とし、教科科目の特質(学科・実技・演習等)に応じて実施する。 指導計画書は、前年度末に作成し年度はじめにおいて学生に明示すると共に、本校において閲覧可能とする。	
授業計画書の公表方法	https://www.oka-kenribi.ac.jp
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
入学後に学生に対し担任面談をおこない、学校生活の充実度や学習意欲を把握確認している。 また、年間を通して定期試験を行い、随時授業の学習成果を厳正かつ適正にはかつており、優(100点～90点)、良(89点～70点)、可(69点～60点)不可(59点～)と評価している。学年を通じて可以上の評価を得た学生には当該科目において単位を与えるものである。 また、不可になった学生に対しては追試、再試またはレポート作成をさせるなどで単位を認定している。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) [指標の算出方法] 理容科、美容科美容コース、美容科トータルビューティーコースのそれぞれにおいて年間を通して定期試験等で採点をおこない、全履修課目の合計得点をもって各学生の成績として順位づけをおこない、成績の分布状況を把握する。 [客観的指標の適切な実施状況] 前期・後期毎に、各コースの総学生数から退学・休学の学生数をのぞいた学生数を4で除して整数として完全に下位1/4に当てはまる学生を警告の対象とする。 また、①定期試験回毎、②前期(4月～9月)終了時点、③後期(10月～3月)終了時点④学年終了時点(4月～3月)において集計し、①～④の結果を学生に対し成績評価として示している。 また、以上の成績評価の指標を本校にて自由閲覧とする。 *本試験をもって成績分布を把握するものであり、進級・卒業の為におこなう再試験の結果は成績分布に反映させない。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.oka-kenribi.ac.jp
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 理容師法養成施設指定規則、美容師法養成施設指定規則に定められた教科科目および単位数に対し、数値化した成績考査(定期試験等)を実施した上で単位を与え、履修時間の条件を満たした学生に卒業を認定するものとしている。 また、履修が十分でない場合においても、欠席が必要履修時間数(学科では1/3、実習を伴う科目1/5)以内となるよう補講補習を行った上で卒業を認めている。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.oka-kenribi.ac.jp

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	岡山県理容美容専門学校
設置者名	学校法人 岡山理容美容学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	本校 HP https://www.oka-kenribi.ac.jp
収支計算書又は損益計算書	本校 HP https://www.oka-kenribi.ac.jp
財産目録	本校 HP https://www.oka-kenribi.ac.jp
事業報告書	本校 HP https://www.oka-kenribi.ac.jp
監事による監査報告（書）	本校 HP https://www.oka-kenribi.ac.jp

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
衛生		理容美容専門課程	理容科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	6 7 単位時間／単位	単位時間 20/単位	単位時間 2/単位	単位時間 30/単位	単位時間 0/単位	単位時間 15/単位
			6 7 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
8 0 人		4 1 人	0 人	4 人	2 1 人	2 5 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業の1単位時間は50分を標準とし、教科課目の特質に応じて、授業の形態内容（学科・実技等）に合わせて実施している。 理容師国家試験合格基準を到達目標とし、必要に応じて教育課程編成委員会等において協議した上で授業計画を作成している。 指導計画書は、年度はじめにおいて学生に明示すると共に、随時本校において閲覧可能とする。
成績評価の基準・方法
（概要） 年間を通して定期試験をおこない、全履修科目での総得点をもって学生個人の成績として順位を出し、成績の分布状況を把握している。 また、①定期試験回毎、②前期（4月～9月）終了時点、③後期（10月～3月）終了時点④学年終了時点（4月～3月）において集計し、①～④の結果を学生に対し成績評価として示している。 以上の成績評価の指標を本校にて自由閲覧とする。 入学後に学生に対し担任面談をおこない、学校生活の充実度や学習意欲を把握確認して

いる。 年間を通して定期試験を行い、随時授業の学習成果を厳正かつ適正にはかっており、優（１００点～９０点）、良（８９点～７０点）、可（６９点～６０点）不可（５９点～）と評価している。学年を通じて可以上の評価を得た学生には当該科目において単位を与えるものである。 また、不可になった学生に対しては追試、再試またはレポート作成をさせるなどで単位を認定している。
卒業・進級の認定基準
（概要） 理容師養成施設指定規則に定められた教科科目および単位数に対し、数値化した成績考査（定期試験等）を実施した上で単位を与え、履修時間の条件を満たした学生に卒業を認定するものとしている。 また、履修が十分でない場合においても、欠席が必要履修時間数（学科では１／３、実習を伴う科目１／５）以内となるよう補講補習を行った上で卒業を認めている。 随時、本校において本書を閲覧可能としている。
学修支援等
（概要） 入学後、随時学生に対して担任面談をおこない、学生生活の充実度や学習意欲を確認している。また学習効果を上げる為、必要に応じて学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会において協議確認しながら学校運営につなげている。 随時、本校において本書を閲覧可能としている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
14人 (100%)	1人 (7.1%)	13人 (92.9%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 理容所、理容業全般			
（就職指導内容） 進級前後に就職ガイダンスを実施し、随時個々の学生に履歴書作成・面接の指導等を行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 理容師免許・専門士・JNEC ネイリスト技能検定３級・SBS 接客マナー検定３級			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
35人	2人	5.7%
（中途退学の主な理由） 一身上の都合、進路変更		

(中退防止・中退者支援のための取組)
担任面談や三者面談を行い、退学希望者へは休学や通信課程への転入を促している

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		理容美容専門 課程	美容科 美容コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
			単位時間 20/単位	単位時間 2/単位	単位時間 30/単位	単位時間 0/単位	単位時間 15/単位
2年	昼	6 7 単位時間／単位	6 7 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
2 8 0 人		2 6 8 人	0 人	1 0 人	1 2 人	2 2 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業の1単位時間は50分を標準とし、教科課目の特質に応じて、授業の形態内容（学科・実技等）に合わせて実施している。 美容師国家試験合格基準を到達目標とし、必要に応じて教育課程編成委員会等において協議した上で授業計画を作成している。 指導計画書は、年度はじめにおいて学生に明示すると共に、随時本校において閲覧可能とする。
成績評価の基準・方法
（概要） 年間を通して定期試験をおこない、全履修課目での総得点をもって学生個人の成績として順位を出し、成績の分布状況を把握している。 また、①定期試験回毎、②前期（4月～9月）終了時点、③後期（10月～3月）終了時点④学年終了時点（4月～3月）において集計し、①～④の結果を学生に対し成績評価として示している。 以上の成績評価の指標を本校にて自由閲覧とする。 入学後に学生に対し担任面談をおこない、学校生活の充実度や学習意欲を把握確認している。 年間を通して定期試験を行い、随時授業の学習成果を厳正かつ適正にはかつており、優（100点～90点）、良（89点～70点）、可（69点～60点）不可（59点～）と評価している。学年を通じて可以上の評価を得た学生には当該課目において単位を与えるものである。 また、不可になった学生に対しては追試、再試またはレポート作成をさせるなどで単位を認定している。
卒業・進級の認定基準
（概要） 美容師養成施設指定規則に定められた教科課目および単位数に対し、数値化した成績考査（定期試験等）を実施した上で単位を与え、履修時間の条件を満たした学生に卒業を認定するものとしている。 また、履修が十分でない場合においても、欠席が必要履修時間数（学科では1/3、実習を伴う課目1/5）以内となるよう補講補習を行った上で卒業を認めている。 随時、本校において本書を閲覧可能としている。
学修支援等

(概要)
入学後、随時学生に対して担任面談をおこない、学生生活の充実度や学習意欲を確認している。また学習効果を上げる為、必要に応じて学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会において協議確認しながら学校運営につなげている。 随時、本校において本書を閲覧可能としている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
121人 (100%)	0人 (0%)	118人 (97.5%)	3人 (2.5%)
(主な就職、業界等) 美容所、美容業全般			
(就職指導内容) 進級前後に就職ガイダンスを実施し、随時個々の学生に履歴書作成・面接の指導等を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 美容師免許・専門士・JNEC ネイリスト技能検定3級・SBS 接客マナー検定3級 SBS メイクデザイナー2級・SBS エステティシャン2級・SBS 着付けデザイナー2級/1級			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
264人	14人	5.3%
(中途退学の主な理由) 一身上の都合、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任面談や三者面談を行い、退学希望者へは休学や通信課程への転入を促している		

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		理容美容専門課程	美容科 トータルビューティークース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	67単位時間／単位	単位時間 21／単位	単位時間 2／単位	単位時間 30／単位	単位時間 0／単位	単位時間 14／単位
			67単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
280人	268人	0人	10人	12人	22人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業の1単位時間は50分を標準とし、教科課目の特質に応じて、授業の形態内容（学科・実技等）に合わせて実施している。 美容師国家試験合格基準を到達目標とし、必要に応じて教育課程編成委員会等において協議した上で授業計画を作成している。 指導計画書は、年度はじめにおいて学生に明示すると共に、随時本校において閲覧可能とする。
成績評価の基準・方法
（概要） 年間を通して定期試験をおこない、全履修課目での総得点をもって学生個人の成績として順位を出し、成績の分布状況を把握している。 また、①定期試験回毎、②前期（4月～9月）終了時点、③後期（10月～3月）終了時点④学年終了時点（4月～3月）において集計し、①～④の結果を学生に対し成績評価として示している。 以上の成績評価の指標を本校にて自由閲覧とする。 入学後に学生に対し担任面談をおこない、学校生活の充実度や学習意欲を把握確認している。 年間を通して定期試験を行い、随時授業の学習成果を厳正かつ適正にはかつており、優（100点～90点）、良（89点～70点）、可（69点～60点）不可（59点～）と評価している。学年を通じて可以上の評価を得た学生には当該課目において単位を与えるものである。 また、不可になった学生に対しては追試、再試またはレポート作成をさせるなどで単位を認定している。
卒業・進級の認定基準
（概要） 美容師養成施設指定規則に定められた教科課目および単位数に対し、数値化した成績考査（定期試験等）を実施した上で単位を与え、履修時間の条件を満たした学生に卒業を認定するものとしている。 また、履修が十分でない場合においても、欠席が必要履修時間数（学科では1/3、実習を伴う課目1/5）以内となるよう補講補習を行った上で卒業を認めている。 随時、本校において本書を閲覧可能としている。
学修支援等
（概要） 入学後、随時学生に対して担任面談をおこない、学生生活の充実度や学習意欲を確認している。また学習効果を上げる為、必要に応じて学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会において協議確認しながら学校運営につなげている。 随時、本校において本書を閲覧可能としている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
121人 (100%)	0人 (0%)	118人 (97.5%)	3人 (2.5%)
（主な就職、業界等） 美容所、美容業全般			
（就職指導内容） 進級前後に就職ガイダンスを実施し、随時個々の学生に履歴書作成・面接の指導等を行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 美容師免許・専門士・JNEC ネイリスト技能検定3級・SBS 接客マナー検定3級 SBSメイクデザイナー2級・SBSエステディンク2級/1級・SBS・SBS着付デザイナー2級/1級 JNAジェルネイル技能検定初級・パーソナルリスト検定3級・メイク検定プラクティカル級(JMPA 認定)			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
264人	14人	5.3%
（中途退学の主な理由） 一身上の都合、進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任面談や三者面談を行い、退学希望者へは休学や通信課程への転入を促している		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
理容科	200,000 円	360,000 円	240,000 円	その他内訳 …実習費 20,000 円/月
美容科 美容コース	200,000 円	360,000 円	240,000 円	その他内訳 …実習費 20,000 円/月
美容科 トータルビューティ ーコース	200,000 円	360,000 円	240,000 円	その他内訳 …実習費 20,000 円/月
	円	円	円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.oka-kenribi.ac.jp/		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
・「委員の定数」は、4～5名とする。 ・「委員の選出区分」は、理美業界・関係業界・学校現場・保護者のステイクホルダーとの連携協議を基に学校づくりを推進していく。 ・「学校自己評価」を前期と後期の終了時に実施する。 ・「学生アンケート」を前期と後期の終了時に実施する。評価項目は、①教育理念・目的・人材育成像 ②学校運営 ③教育活動 ④学修成果 ⑤学生支援 ⑥教育環境 ⑦学生の受入れ募集 ⑧財務 ⑨法令等の遵守 ⑩社会貢献・地域貢献 ⑪国際交流（必要に応じて）とする。 ・組織的・継続的な教育活動等の改善策を策定し教頭、教務主任の管理の元を実施する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
理美業界（同窓会）	2025年4月1日～ 2026年3月31日	卒業生
関係業界（理美商社）	2025年4月1日～ 2026年3月31日	役員
高等学校（学校現場）	2025年4月1日～ 2026年3月31日	学校長
保護者	2025年4月1日～ 2026年3月31日	保護者
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.oka-kenribi.ac.jp/		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.oka-kenribi.ac.jp/
--

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	岡山県理容美容専門学校
設置者名	学校法人 岡山理容美容学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.oka-kenribi.ac.jp>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤 中原 一郎	理容組合 理事長	2025.6.2 ～ 2028.6.5	学校経営及び運営 の為の協議、検討並 びに推進
非常勤 太田 佳徳	理容組合 副理事長	2025.6.2 ～ 2028.6.5	学校経営及び運営 の為の協議、検討並 びに推進
非常勤 坂本 勝史	理容組合 副理事長	2025.6.2 ～ 2028.6.5	学校経営及び運営 の為の協議、検討並 びに推進
非常勤 中嶋 實人	美容組合 理事長	2025.6.2 ～ 2028.6.5	学校経営及び運営 の為の協議、検討並 びに推進
非常勤 那須 繁一	美容組合 副理事長	2025.6.2 ～ 2028.6.5	学校経営及び運営 の為の協議、検討並 びに推進
非常勤 平槇智恵子	美容組合 副理事長	2025.6.2 ～ 2028.6.5	学校経営及び運営 の為の協議、検討並 びに推進
非常勤 神田 益穂	元県職員	2025.6.2 ～ 2028.6.5	学校経営及び運営 の為の協議、検討並 びに推進
非常勤 古南 篤子	元県職員	2025.6.2 ～ 2028.6.5	学校経営及び運営 の為の協議、検討並 びに推進
非常勤 合六 秀樹	理容組合 教育部長	2025.6.2 ～ 2028.6.5	学校経営及び運営 の為の協議、検討並 びに推進

非常勤 清水 善光	美容組合 教育部長	2025. 6. 2 ～ 2028. 6. 5	学校経営及び運営 の為の協議、検討並 びに推進
(備考)			

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H133310000113
学校名 (〇〇大学 等)	岡山県理容美容専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 岡山理容美容学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		56人（ － ）人	48人（ － ）人	58人（ － ）人
内 訳	第Ⅰ区分	32人	25人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅱ区分	13人	14人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅲ区分	一人	一人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅳ区分（理工農）	人	人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	一人	一人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ ）人
合計（年間）				58人（ － ）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0人	一人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	一人
計	人	0人	一人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	人	前半期	後半期
		0人	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	一人	一人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	一人	一人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	一人	一人
計	人	18人	19人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

実務経験のある教員等による授業科目

課程名	学科名	コース名	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数 科目名	省令で 定める 基準 単位数	配置 困難
理容美容専門課程	理容科		関係法規・制度	4	
			衛生管理	3	
			保——健	3	
			香粧品化学	2	
			文——化——論	2	
			運営管理	4	
			理容技術理論	5	
			理容実習	30	
			ビジネス教養	4	
			デッサン	4	
			ライセンスセミナー	2	
			毛髪科学	1	
			理容総合技術	15	
			実務経験のある教員等による 授業科目の単位数の合計	51	

理容美容専門課程	美容科	美容 コース	関係法規・制度	1		
			衛生管理	3		
			保 健	3		
			化粧品化学	2		
			文 化 論	2		
			運営管理	4		
			美容技術理論	5		
			美容実習	30		
			ビジネス教養	4		
			デッサン	4		
			ライセンスセミナー	2		
			毛髪科学	1		
			美容総合技術	15		
		実務経験のある教員等による 授業科目の単位数の合計			51	
		トータル ビューティー コース	関係法規・制度	4		
			衛生管理	3		
			保 健	3		
			化粧品化学	2		
			文 化 論	2		
			運営管理	4		
			美容技術理論	5		
			美容実習	30		
			ビジネス教養	4		
			デッサン	4		
			ライセンスセミナー	2		
			カラーコーディネイト	4		
			ブライダル	1		
			トータルビューティー総合技術	14		
実務経験のある教員等による 授業科目の単位数の合計			50			

設置者の理事(役員)名簿

学 校 名	岡山県理容美容専門学校
設 置 者 名	学校法人 岡山理容美容学園

	常勤・非常勤 の別	前職又は現職	氏 名	住 所	備 考
1	常 勤	理事長	岡田 浩明	岡山県岡山市	
2	常 勤	校 長	木村 健司	岡山県岡山市	
3	非常勤	理容組合 理事長	中原 一郎	岡山県岡山市	学外者
4	非常勤	理容組合 副理事長	太田 佳徳	岡山県岡山市	学外者
5	非常勤	理容組合 副理事長	坂本 勝史	岡山県瀬戸内市	学外者
6	非常勤	美容組合 理事長	中嶋 實人	岡山県岡山市	学外者
7	非常勤	美容組合 副理事長	杉 茂典	岡山県岡山市	学外者
8	非常勤	美容組合 副理事長	那須 繁一	岡山県岡山市	学外者
9	非常勤	元県職員	神田 益穂	岡山県久米郡	学外者
10	非常勤	元県職員	古南 篤子	岡山県岡山市	学外者
11	非常勤	理容組合 教育部長	合六 秀樹	岡山県岡山市	学外者
12	非常勤	美容組合 教育部長	清水 善光	岡山県岡山市	学外者
(備考)					

授業計画書

(令和7年4月1日施行)

岡山県理容美容専門学校

授業計画書

理容美容専門課程 【 昼 間 課 程 】

岡山県理容美容専門学校

教科課程履修における実施概要

1、成績評価の基準

年間を通して定期試験等を行い、随時学習成果を厳正かつ適正にはかる。

年度を半期毎に分けて前期（4－9月）、後期（10－3月）とし定期試験において取得した得点によって、次のように評価する。

また、一部科目においては提出物、又は到達目標となる検定等の可否を基に判定を行うものとする。

優	・・・	100点～90点
良	・・・	89点～70点
可	・・・	69点～60点
不可	・・・	59点～ 0点

2、再試験の対象基準

各科目において59点以下の場合、及第を目的として再試験を実施する。

3、補講授業の対象基準

教科科目ごとに、欠席が出席すべき教科科目の時間数の3分の1（実習を伴う教科科目にあっては5分の1）を超える者については、卒業を認めないことから、その対象者にはこれを補い履修、卒業を認めるために、十分な補講等を行うこととする。

理 容 科

[必修課目] 関係法規・制度

単 位 数	1単位	時 間 数	30時間以上
履修学年	1 年	担当教員名	高月秀人 他
授業の方法	講 義	実務経験有する教員配置	な し
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教 科 書	日本理容美容教育センター発行教科書		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		
授業内容	理容・美容に関する衛生法規と理容師法・美容師法についての正しい知識を学ぶ。理容・美容の業務と保健所の関係を理解させ、理容所・美容所衛生措置ならびに理容師美容師の業務内容を社会的責務と倫理規範の観点から具体的に理解させる。		

授業計画		開始予定月	時間数／累積時間数
第1章 法制度の概要	社会生活における法の役割	1 年 / 4 月	1
	法の形式		1
	衛生法期の概要	5 月	2
	理容師法・美容師法と附属法令		2 / 6
第2章 衛生行政の概要	衛生行政の意義と歴史	6 月	2
	衛生行政の分類と生活衛生行政の内容		2
	衛生行政を担う行政機関	7 月	1 / 11
第3章 理容師法・美容師法	目的	9 月	2
	用語の定義	1 0 月	2
	人(理容師・美容師)に関する規定		3
	施設(理容所・美容所)に関する規定	1 1 月	3
	立入検査と環境衛生監視員	1 2 月	3
	違反者等に対する行政処分	1 月	2
	罰則		2 / 28
第4章 関連法規		2 月	2 / 30

担当教員の 実務経験等	
----------------	--

[必修課目] 衛生管理

単位数	3単位	時間数	90時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	岡 正恒 他
授業の方法	講 義	実務経験有する教員配置	な し
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課程の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		
授業の内容	理容所・美容所において、公衆衛生・環境衛生と業務的関連、衛生措置、注意すべき感染症、消毒の意義と具体的な消毒法を学ぶ。理容所・美容所の衛生措置ならびに理容師美容師としてなすべき業務内容を社会的責務と倫理規範の観点から具体的に理解させる。		

授業計画		開始予定月	時間数／累積時間数
第1編 公衆衛生	公衆衛生の概要	2年／4月	7
	保健	5月	8 / 15
第2編 環境衛生	環境衛生	6月	6
	国家試験まとめ	7月～	9 / 30
第3編 感染症	感染症の総論	1年／4月	20
	感染症の各論	6月	20 / 70
第4編 衛生管理技術	消毒法総論	9月	6
	消毒法各論	10月	6
	消毒法実習	12月	6
第5編 衛生管理の 実践例	理・美容所における衛生管理要領	1月	1
	理・美容所の自主管理点検表	2月	1 / 90

担当教員の 実務経験等	
----------------	--

[必修課目] 保 健

単 位 数	3単位	時 間 数	90時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	嶋田 義弘 他
授業の方法	講 義	実務経験有する教員配置	な し
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教 科 書	日本理容美容教育センター発行教科書		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		
授業の内容	理容所・美容所において、安全で効果的な施術を行うために必要な人体、皮膚、毛髪等の組織構造と生理機能を学ぶ。特に施術においては重要な頭部及び皮膚、毛髪について理論的理解を深め、理容所・美容所において的確な施術に繋がるよう習得する。		

授業計画		開始予定月	時間数／累積時間数
第1編 人体の構造および機能	頭部、顔部、頸部の体表解剖学	1 年／ 4 月	6
	骨格器系	5 月	6
	筋系	6 月	6
	神経系		6
	感覚器系	7 月	4
	血液・循環器系		4
	呼吸器系	9 月	6
	消化器系	1 0 月	8 / 46
第2編 皮膚科学	皮膚の構造	1 0 月	6
	皮膚付属器官の構造	2 月	8 / 60
	皮膚の循環系と神経系	2 年／ 4 月	4
	皮膚と皮膚付属器官の生理機能	6 月	4
	皮膚と皮膚付属器官の保健	9 月	4
	皮膚と皮膚付属器官の疾患	9 月	4
	国家試験まとめ	1 0 月～	14 / 90

担当教員の 実務経験等	
----------------	--

[必修課目] 香粧品化学

単位数	2単位	時間数	60時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	阿部 泰之 他
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		
授業の内容	理容所・美容所において必要な香粧品の種類や使用目的、成分について学ぶ。業務を行なうに当たって科学的な知識を習得する。		

授業計画		開始予定月	時間数／累積時間数
第1編 香粧品総論			
第1章 香粧品総論	香粧品とは 香粧品と造形 香粧品の効果と使用プロセス	1年／4月	1 2 ／3
第2章 香粧品使用時に 気をつけること	香粧品使用によるトラブル 香粧品の定義と法規制 香粧品の安全性と安定性		1 2 1 ／7
第3章 香粧品の成り立ち	香粧品の成り立ち 水と親水性溶媒 油性原料 界面活性剤 高分子化合物 色材 香料 製品を安定させる配合原料 その他の機能性配合原料 雑貨原料 まとめ	5月 6月 9月 10月 10月 11月	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 13 ／30
第2編 香粧品各論			
第1章 スキンケア製品	香粧品の効果と使用プロセス クレンジング用香粧品 コンディショニング用香粧品 トリートメント用香粧品	2年／4月	2 2 2 2 ／38
第2章 メイクアップ製品	メイクアップ製品の種類と剤形 ベースメイクアップ香粧品 ポイントメイクアップ香粧品 アイメイクアップ製品 まつ毛ケア製品 ネイルメイクアップ製品 ネイルケア製品 ヘアクレンジング用香粧品 ヘアコンディショニング用香粧品 ヘアスタイリング料 パーマ剤 ヘアカラー製品 スキャブケア製品 国家試験まとめ	5月 6月 11月～	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 26 ／60
			90
担当教員の 実務経験等			

[必修課目] 文 化 論

単 位 数	2単位	時 間 数	60時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	田中 勉 他
授業の方法	講 義	実務経験有する教員配置	な し
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教 科 書	日本理容美容教育センター発行教科書		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		
授業の内容	ファッションと服飾の変遷、造形や色彩の原理とその心理的関わりを学ぶ。理容・美容業務を行なう上で、よりすぐれた人間美の創造が最終的な目標であり、その実現のため洗練された美的感覚と豊かな感性および確かな技術力は欠かせない。この素養を養うことを習得目的とする。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
第1章 総 論	1 年／ 9 月	1
第2章 日本の理容業・美容業の歴史		1
理容業・美容業の発生		1
江戸時代の理容業・美容業		1
近代の理容業・美容業		1
現代の理容業・美容業		1
日本の理容業・美容業の歴史年表		1
第3章 ファッション文化史 日本編		1
縄文・弥生・古墳時代	1 0 月	2
古代	1 1 月	2
中世	1 月	2
近世	2 月	2
近代	2 年／ 4 月	8
現代	5 月	8
国家試験まとめ	6 月～	8
第4章 ファッション文化史 西洋編		6
古代	1 年／ 4 月	2
中世		2
近世	5 月	2
近代		2
現代	6 月	2
第5章 礼装の種類		
和装の礼装		2
洋装の礼装		2
		／60

担当教員の 実務経験等	
----------------	--

[必修課目] 運営管理

単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	1年	担当教員名	北村 宣幸 他
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		
授業の内容	将来において理容所・美容所を経営する際の科学的な経営管理の方法と、適切な接客について学ぶ。健全な理容業・美容業の経営に役立て、またサービス業において接客業務がいかに重要かを認識させ、消費者対応の基本と実践を身につけさせる。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
第1編 経営者の視点		
第1章 経営とは・経営者とは	1年／4月	2
第2章 理容業・美容業の経営について		2
第3章 資金の管理	5月	3 / 7
第2編 人という資源 従業員としての視点		
第1章 人という資源	6月	3
第2章 従業員としての視点から	9月	10
第3章 健康・安全な職場環境の実現	12月	4 / 17
第3編 顧客のために		
第1章 サービス・デザイン	1月	2
第2章 サービス・マーケティング	2月	2
第3章 サービスにおける人の役割	3月	2 / 30

担当教員の 実務経験等	
----------------	--

[必修課目] 理容技術理論

単 位 数	5単位	時 間 数	150時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	理容科教員
授業の方法	講 義	実務経験有する教員配置	有り:理容師として
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教 科 書	日本理容美容教育センター発行教科書		
到達目標	理容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師国家試験合格基準に到達する。		
授業の内容	理容器具類においては適切な操作、衛生的管理方法を学ぶ。理容技術においては衛生的且つ能率的技術を行なうための理論を学ぶ。理論的根拠を明らかにし、施術につなげられるよう習得する。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
序章 理容技術理論を学ぶにあたって	1年／4月	6
1章 理容技術の基礎	5月	8
2章 理容用具	6月	8
3章 ヘアデザイン	7月	8
4章 ヘアカッティング	9月	8
5章 ヘアセッティング	10月	8
6章 パーマネントセット	2月	8
7章 ヘアカラーリング		6 /60
8章 シェービング	2年／4月	8
9章 理容エステティック	5月	8
10章 理容クリニック	6月	8
11章 シャンプーイング&リンシング	7月	8
12章 理容マッサージ	9月	8
13章 ヘアトリートメント	10月	6
14章 スカルプトリートメント	11月	6
国家試験まとめ	12月	38 /150

専任教員の 実務経験等	理容主任 — 理容師実務経験16年 0月 (管理理容師) 教員 1 — 理容師実務経験 7年 0月 (管理理容師)
----------------	--

[必修課目] 理容実習

単位数	30単位	時間数	900時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	理容科教員 他
授業の方法	実習	実務経験有する教員配置	有り:理容師として
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
到達目標	理容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師国家試験合格基準に到達する。		
授業の内容	顧客の要望に応じた技術提供ができるよう、基本的技術を総合的に学ぶ。理容業務を効果的に実施できるよう技術を習得させる。器具の消毒などの衛生管理を同時に行い、安全のもとで提供できるようにする。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
第1章 スタンダードヘア	1年／4月	20
第2章 デザインヘア		50
第3章 ヘアセッティング		20
第4章 パーマネントウェービング	5月	30
第5章 アイアニング		40
第6章 ヘアカラーリング	6月	30
国家試験課題	通年	200 / 390
第7章 シェービング	2年／4月	20
第8章 ハンドケア	5月	30
第9章 フットケア	6月	30
第10章 ヘアクリニック	1月	20
第11章 シャンプーイング&リンシング	2月	20
第12章 ヘッドマッサージ	3月	10
第13章 クリニックマッサージ		10
国家試験課題	通年	370 / 900

専任教員の 実務経験等	理容主任 — 理容師実務経験16年 0月 (管理理容師) 教員 1 — 理容師実務経験 7年 0月 (管理理容師)
----------------	--

[選択課目] ビジネス教養

単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	1年	担当教員名	常勤教員 他
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】【検定結果】等によ	成績評価の基準	優・良・可・不可
教科書	SBS接遇・マナーディレクター定3級テキスト、新聞、SNS関連、ニュース等		
到達目標	社会生活における情報を理解し、自身の見解や判断を持って行動できる社会性を持つことを目指す。		
授業の内容	理容・美容業界でのビジネスマナー、接客において必要となる一般常識や社会情勢などの教養を幅広く身につける。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
第1章 社会人としての基本	1年／4月	4
第2章 正しい動作	5月	5
第3章 言葉遣い（接遇マナー検定）	6月	7
第4章 接客の基本（新常識）	9月	5
第5章 電話対応の基礎	11月	3
第6章 一般常識・各種マナー	12月	4
第7章 履歴書の書き方	1月	2 / 30

担当教員の 実務経験等	
----------------	--

〔選択科目〕 デッサン

単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	1年	担当教員名	北村 宣幸 他
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	作画及び取り組み状況	成績評価の基準	優・良・可・不可
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書に基づく資料		
到達目標	理容所・美容所において、顧客に対しヘアデザインの提供ができるよう実践的にイメージ創作をおこなうことに到達する。		
授業の内容	理容・美容における造形の意義と応用について学ぶ。デッサンの基礎からヘアデザイン画まで学ぶ。人体および頭部の造形バランスを把握し、それが心理面に及ぼす効果を学習し描き方の基本から、実際のデッサン技法を理解する。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
鉛筆の使い方	1年／4月	4
人体のプロポーション	5月	4
顔の部分練習	6月	4
顔の描き方		4
角度の変化による顔形	9月	4
ヘアの描き方	10月	2
ヘアスタイルによるイメージの違い	1月	4
同じ顔でイメージを変える	2月	4
		／30

担当教員の 実務経験等	
----------------	--

[選択課目] ライセンスセミナー

単 位 数	2単位	時 間 数	60時間以上
履修学年	2 年	担当教員名	常勤教員 他
授業の方法	演 習	実務経験有する教員配置	な し
成績評価の方法	演習の得点による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教 科 書	教育センター発行 ワークブックおよび国家試験過去問題		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の総仕上げとし、理容師美容師国家試験に対する合格基準に到達する。		
授業の内容	関係法規・制度、衛生管理、保健、香粧品化学、文化論、運営管理、技術理論の過去問題を集中的に演習し、視聴覚機材を有効に活用することで理解を深めさせる。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
関係法規・制度	国家試験 対策の為 随時	5
運営管理		5
衛生管理		
・公衆衛生・環境衛生		5
・感染症		5
・衛生管理技術		5
保健		
・人体の構造および保健		5
・皮膚科学		5
香粧品化学		5
文化論		5
技術理論		15 /60

担当教員の 実務経験等	
----------------	--

〔選択科目〕 毛髪科学

単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	2年	担当教員名	福田啓子 他
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	有り:理美容師として
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教科書	ヘアケアマイスターブック		
到達目標	顧客に対し、実践的に毛髪の生理機能に関して的確なアドバイスとそれに伴う具体的で必要な指導、施術をできることに到達する。		
授業の内容	理容所・美容所において、健康な頭皮、頭髪を保つための知識や施術を学ぶ。頭皮、頭毛に関する器官の名称とその機能を理解する。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
第1章 毛髪科学編	1年／4月	4
第2章 毛髪のカウンセリング編	5月	4
第3章 ヘアケア剤編	6月	4
第4章 皮膚科学編		4
第5章 スカルプケア編	9月	4
第6章 ヘアカラー剤編	10月	6
第7章 パーマ剤編	1月	4
		／30

担当教員の 実務経験等	理容主任 ― 理容師実務経験16年 0月 （管理理容師）
----------------	------------------------------

〔選択課目〕 理容総合技術

単位数	15単位	時間数	450時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	理容科教員 他
授業の方法	実 技	実務経験有する教員配置	有り:理容師として
成績評価の方法	技術理解・修得度による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教科書	独自教材		
到達目標	理容技術についての幅広い知識と技術、ノウハウについて学ぶ。 理容技術の総合的理解に到達する。		
授業の内容	頭部、顔面、特殊技術を組み合わせて調和のとれた理容技術を完成させるために総合的技術を学ぶ。理論・実習・その他の課目において学習した内容は、それぞれが相互に関係して現場で体现されるべきものである。そのために、作品をデザインし、創作することにより、学習した内容を統合的に考えさせる。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
カウンセリング	1年／4月	10
トレーニング①	4月	30
接客技術①	5月	30
カラーリング①	6月	30
セッティング応用①	7月	30
トレーニング②	8月	20
接客技術②	9月	30
カラーリング②	10月	30
パーマメントウェーブ応用①	11月	30
マッサージ	12月	20
エステティック	1月	10 /270
セッティング応用②	2年／4月	20
パーマメントウェーブ応用②	5月	50
ヘアカッティング応用		60
スタイリング		20
商品知識	9月	20
ネイル	11月	10 /450

専任教員の 実務経験等	理容主任 ― 理容師実務経験16年 0月 (管理理容師) 教員 1 ― 理容師実務経験 7年 0月 (管理理容師)
----------------	--

美容科

美容科

美容コース

[必修課目] 関係法規・制度

単 位 数	1単位	時 間 数	30時間以上
履修学年	1 年	担当教員名	高月秀人 他
授業の方法	講 義	実務経験有する教員配置	な し
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教 科 書	日本理容美容教育センター発行教科書		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		
授業内容	理容・美容に関する衛生法規と理容師法・美容師法についての正しい知識を学ぶ。理容・美容の業務と保健所の関係を理解させ、理容所・美容所衛生措置ならびに理容師美容師の業務内容を社会的責務と倫理規範の観点から具体的に理解させる。		

授業計画		開始予定月	時間数／累積時間数
第1章 法制度の概要	社会生活における法の役割	1 年 / 4 月	1
	法の形式		1
	衛生法期の概要	5 月	2
	理容師法・美容師法と附属法令		2 / 6
第2章 衛生行政の概要	衛生行政の意義と歴史	6 月	2
	衛生行政の分類と生活衛生行政の内容		2
	衛生行政を担う行政機関	7 月	1 / 11
第3章 理容師法・美容師法	目的	9 月	2
	用語の定義	1 0 月	2
	人(理容師・美容師)に関する規定		3
	施設(理容所・美容所)に関する規定	1 1 月	3
	立入検査と環境衛生監視員	1 2 月	3
	違反者等に対する行政処分	1 月	2
	罰則		2 / 28
第4章 関連法規		2 月	2 / 30

担当教員の 実務経験等	
----------------	--

[必修課目] 衛生管理

単位数	3単位	時間数	90時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	岡 正恒 他
授業の方法	講 義	実務経験有する教員配置	な し
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		
授業の内容	理容所・美容所において、公衆衛生・環境衛生と業務的関連、衛生措置、注意すべき感染症、消毒の意義と具体的な消毒法を学ぶ。理容所・美容所の衛生措置ならびに理容師美容師としてなすべき業務内容を社会的責務と倫理規範の観点から具体的に理解させる。		

授業計画		開始予定月	時間数／累積時間数
第1編 公衆衛生	公衆衛生の概要	2年／4月	7
	保健	5月	8 / 15
第2編 環境衛生	環境衛生	6月	6
	国家試験まとめ	7月～	9 / 30
第3編 感染症	感染症の総論	1年／4月	20
	感染症の各論	6月	20 / 70
第4編 衛生管理技術	消毒法総論	9月	6
	消毒法各論	10月	6
	消毒法実習	12月	6
第5編 衛生管理の 実践例	理・美容所における衛生管理要領	1月	1
	理・美容所の自主管理点検表	2月	1 / 90

担当教員の 実務経験等	
----------------	--

[必修課目] 保 健

単 位 数	3単位	時 間 数	90時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	嶋田 義弘 他
授業の方法	講 義	実務経験有する教員配置	な し
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教 科 書	日本理容美容教育センター発行教科書		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		
授業の内容	理容所・美容所において、安全で効果的な施術を行うために必要な人体、皮膚、毛髪等の組織構造と生理機能を学ぶ。特に施術においては重要な頭部及び皮膚、毛髪について理論的理解を深め、理容所・美容所において的確な施術に繋がるよう習得する。		

授業計画		開始予定月	時間数／累積時間数
第1編 人体の構造および機能	頭部、顔部、頸部の体表解剖学	1年／4月	6
	骨格器系	5月	6
	筋系	6月	6
	神経系		6
	感覚器系	7月	4
	血液・循環器系		4
	呼吸器系	9月	6
	消化器系	10月	8 / 46
第2編 皮膚科学	皮膚の構造	10月	6
	皮膚付属器官の構造	2月	8 / 60
	皮膚の循環系と神経系	2年／4月	4
	皮膚と皮膚付属器官の生理機能	6月	4
	皮膚と皮膚付属器官の保健	9月	4
	皮膚と皮膚付属器官の疾患	9月	4
	国家試験まとめ	10月～	14 / 90

担当教員の 実務経験等	
----------------	--

[必修科目] 化粧品化学

単位数	2単位	時間数	60時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	阿部 泰之 他
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課程の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		
授業の内容	理容所・美容所において必要な化粧品の種類や使用目的、成分について学ぶ。業務を行なうに当たって科学的な知識を習得する。		

授業計画		開始予定月	時間数／累積時間数
第1編 化粧品総論			
第1章 化粧品総論	化粧品とは 化粧品の造形 化粧品の効果と使用プロセス	1年／4月	1 2 ／3
第2章 化粧品使用時に 気をつけること	化粧品使用によるトラブル 化粧品の定義と法規制 化粧品の安全性と安定性		1 2 1 ／7
第3章 化粧品の成り立ち	化粧品の成り立ち 水と親水性溶媒 油性原料 界面活性剤 高分子化合物 色材 香料 製品を安定させる配合原料 その他の機能性配合原料 雑貨原料 まとめ	5月 6月 9月 10月 10月 11月	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 13 ／30
第2編 化粧品各論			
第1章 スキンケア製品	化粧品の効果と使用プロセス クレンジング用化粧品 コンディショニング用化粧品 トリートメント用化粧品	2年／4月	2 2 2 2 ／38
第2章 メイクアップ製品	メイクアップ製品の種類と剤形 ベースメイクアップ化粧品 ポイントメイクアップ化粧品 アイメイクアップ製品 まつ毛ケア製品 ネイルメイクアップ製品 ネイルケア製品 ヘアクレンジング用化粧品 ヘアコンディショニング用化粧品 ヘアスタイリング料 パーマ剤 ヘアカラー製品 スキャブケア製品 国家試験まとめ	5月 6月 11月～	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 26 ／60
			90
担当教員の 実務経験等			

[必修課目] 文 化 論

単 位 数	2単位	時 間 数	60時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	田中 勉 他
授業の方法	講 義	実務経験有する教員配置	な し
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教 科 書	日本理容美容教育センター発行教科書		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		
授業の内容	ファッションと服飾の変遷、造形や色彩の原理とその心理的関わりを学ぶ。理容・美容業務を行なう上で、よりすぐれた人間美の創造が最終的な目標であり、その実現のため洗練された美的感覚と豊かな感性および確かな技術力は欠かせない。この素養を養うことを習得目的とする。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
第1章 総 論	1 年／9 月	1
第2章 日本の理容業・美容業の歴史		1
理容業・美容業の発生		1
江戸時代の理容業・美容業		1
近代の理容業・美容業		1
現代の理容業・美容業		1
日本の理容業・美容業の歴史年表		1
第3章 ファッション文化史 日本編		1
縄文・弥生・古墳時代	1 0 月	2
古代	1 1 月	2
中世	1 月	2
近世	2 月	2
近代	2 年／4 月	8
現代	5 月	8
国家試験まとめ	6 月～	8
第4章 ファッション文化史 西洋編		6
古代	1 年／4 月	2
中世		2
近世	5 月	2
近代		2
現代	6 月	2
第5章 礼装の種類		
和装の礼装		2
洋装の礼装		2

担当教員の 実務経験等	
----------------	--

[必修課目] 運営管理

単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	1年	担当教員名	北村 宣幸 他
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		
授業の内容	将来において理容所・美容所を経営する際の科学的な経営管理の方法と、適切な接客について学ぶ。健全な理容業・美容業の経営に役立て、またサービス業において接客業務がいかに重要かを認識させ、消費者対応の基本と実践を身につけさせる。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
第1編 経営者の視点		
第1章 経営とは・経営者とは	1年／4月	2
第2章 理容業・美容業の経営について		2
第3章 資金の管理	5月	3 / 7
第2編 人という資源 従業員としての視点		
第1章 人という資源	6月	3
第2章 従業員としての視点から	9月	10
第3章 健康・安全な職場環境の実現	12月	4 / 17
第3編 顧客のために		
第1章 サービス・デザイン	1月	2
第2章 サービス・マーケティング	2月	2
第3章 サービスにおける人の役割	3月	2 / 30

担当教員の 実務経験等	
----------------	--

[必修課目] 美容技術理論

単位数	5単位	時間数	150時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	美容科教員
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	有り:美容師として
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
到達目標	美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、美容師国家試験合格基準に到達する。		
授業の内容	美容器具類においては適切な操作、衛生的管理方法を学ぶ。美容技術においては衛生的且つ能率的技術を行なうための理論を学ぶ。理論的根拠を明らかにし、施術につなげられるよう習得する。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
序章 美容技術理論を学ぶにあたって	1年／4月	6
1章 美容用具	5月	8
2章 シャンプーイング	6月	8
3章 ヘアデザイン	7月	8
4章 ヘアカットイング	9月	8
5章 パーマネントウェービング	11月	8
6章 ヘアセッティング	1月	8
7章 ヘアカラーリング	2月	6
8章 エステティック	2年／4月	14
9章 ネイル技術	5月	12
10章 メイクアップ	6月	14
11章 日本髪	7月	14
12章 着付けの理論と技術	9月	12
国家試験まとめ	10月	24
		／60
		／150

専任教員の 実務経験等	美容主任	—	美容師実務経験	12年0月	(管理美容師)
	美容コース長	—	美容師実務経験	9年3月	(管理美容師)
	教員 1	—	美容師実務経験	3年0月	
	教員 2	—	美容師実務経験	3年6月	
	教員 3	—	美容師実務経験	3年0月	
	教員 4	—	美容師実務経験	6年11月	
	教員 5	—	美容師実務経験	3年9月	(管理美容師)
	教員 6	—	美容師実務経験	9年7月	
	教員 7	—	美容師実務経験	15年3月	(管理美容師)

[必修科目] 美容実習

単位数	30単位	時間数	900時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	美容科教員 他
授業の方法	実 習	実務経験有する教員配置	有り:美容師として
成績評価の方法	【定期試験】結果 による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
到達目標	美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、美容師国家試験合格基準に到達する。		
授業の内容	顧客の要望に応じた技術提供ができるよう、基本的技術を総合的に学ぶ。美容業務を効果的に実施できるよう技術を習得させる。器具の消毒などの衛生管理を同時に行い、安全のもとで提供できるようにする。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
第1章 シャンプーイング	1 年／ 4 月	30
第2章 ヘアカットイング		20
第3章 パーマネントウェービング		40
第4章 ヘアセッティング		40
第5章 ヘアカラーリング		20
国家試験課題	通年	240 / 390
第6章 エステティック	2 年／ 4 月	40
第7章 ネイル技術		30
第8章 メイクアップ		20
第9章 着付け技術		40
国家試験課題	通年	380 / 900

専任教員の 実務経験等	美容主任	—	美容師実務経験 1 2 年 0 月	(管理美容師)
	美容コース長	—	美容師実務経験 9 年 3 月	(管理美容師)
	教員 1	—	美容師実務経験 3 年 0 月	
	教員 2	—	美容師実務経験 3 年 6 月	
	教員 3	—	美容師実務経験 3 年 0 月	
	教員 4	—	美容師実務経験 6 年 1 1 月	
	教員 5	—	美容師実務経験 3 年 9 月	(管理美容師)
	教員 6	—	美容師実務経験 9 年 7 月	
	教員 7	—	美容師実務経験 1 5 年 3 月	(管理美容師)

[選択課目] ビジネス教養

単 位 数	1単位	時 間 数	30時間以上
履修学年	1 年	担当教員名	常勤教員 他
授業の方法	講 義	実務経験有する教員配置	な し
成績評価の方法	【定期試験】【検定結果】等によ	成績評価の基準	優・良・可・不可
教 科 書	SBS接遇・マナーディレクター定3級テキスト、新聞、SNS関連、ニュース等		
到達目標	社会生活における情報を理解し、自身の見解や判断を持って行動できる社会性を持つことを目指す。		
授業の内容	理容・美容業界でのビジネスマナー、接客において必要となる一般常識や社会情勢などの教養を幅広く身につける。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
第1章 社会人としての基本	1 年／4 月	4
第2章 正しい動作	5 月	5
第3章 言葉遣い（接遇マナー検定）	6 月	7
第4章 接客の基本（新常識）	9 月	5
第5章 電話対応の基礎	11 月	3
第6章 一般常識・各種マナー	12 月	4
第7章 履歴書の書き方	1 月	2 /30

担当教員の 実務経験等	
----------------	--

〔選択課目〕 デッサン

単 位 数	1単位	時 間 数	30時間以上
履修学年	1 年	担当教員名	北村 宣幸 他
授業の方法	講 義	実務経験有する教員配置	な し
成績評価の方法	作画及び取組み状況	成績評価の基準	優・良・可・不可
教 科 書	日本理容美容教育センター発行教科書に基づく資料		
到達目標	理容所・美容所において、顧客に対しヘアデザインの提供ができるよう実践的にイメージ創作をおこなうことに到達する。		
授業の内容	理容・美容における造形の意義と応用について学ぶ。デッサンの基礎からヘアデザイン画まで学ぶ。人体および頭部の造形バランスを把握し、それが心理面に及ぼす効果を学習し描き方の基本から、実際のデッサン技法を理解する。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
鉛筆の使い方	1 年／ 4 月	4
人体のプロポーション	5 月	4
顔の部分練習	6 月	4
顔の描き方		4
角度の変化による顔形	9 月	4
ヘアの描き方	10 月	2
ヘアスタイルによるイメージの違い	1 月	4
同じ顔でイメージを変える	2 月	4 / 30

担当教員の 実務経験等	
----------------	--

[選択課目] ライセンスセミナー

単 位 数	2単位	時 間 数	60時間以上
履修学年	2 年	担当教員名	常勤教員 他
授業の方法	演 習	実務経験有する教員配置	な し
成績評価の方法	演習の得点による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教 科 書	教育センター発行 ワークブックおよび国家試験過去問題		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の総仕上げとし、理容師美容師国家試験に対する合格基準に到達する。		
授業の内容	関係法規・制度、衛生管理、保健、香粧品化学、文化論、運営管理、技術理論の過去問題を集中的に演習し、視聴覚機材を有効に活用することで理解を深めさせる。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
関係法規・制度	国家試験 対策の為 随時	5
運営管理		5
衛生管理		
・公衆衛生・環境衛生		5
・感染症		5
・衛生管理技術		5
保健		
・人体の構造および保健		5
・皮膚科学		5
香粧品化学		5
文化論		5
技術理論		15 / 60

担当教員の 実務経験等	
----------------	--

[選択課目] 毛髪科学

単 位 数	1単位	時 間 数	30時間以上
履修学年	2 年	担当教員名	福田啓子 他
授業の方法	講 義	実務経験有する教員配置	有り:理美容師として
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教 科 書	ヘアケアマイスターブック		
到達目標	顧客に対し、実践的に毛髪の生理機能に関する的確なアドバイスとそれに伴う具体的で必要な指導、施術をできることに到達する。		
授業の内容	理容所・美容所において、健康な頭皮、頭髪を保つための知識や施術を学ぶ。頭皮、頭毛に関する器官の名称とその機能を理解する。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
第1章 毛髪科学編	1年／4月	4
第2章 毛髪のカウンセリング編	5月	4
第3章 ヘアケア剤編	6月	4
第4章 皮膚科学編		4
第5章 スカルプケア編	9月	4
第6章 ヘアカラー剤編	10月	6
第7章 パーマ剤編	1月	4 / 30

担当教員の 実務経験等	理容主任 — 理容師実務経験16年 0月 (管理理容師)
----------------	------------------------------

[選択課目] 美容総合技術

単位数	15単位	時間数	450時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	美容科教員 他
授業の方法	実 技	実務経験有する教員配置	有り:美容師として
成績評価の方法	技術理解・修得度による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教科書	独自教材		
到達目標	美容技術についての幅広い知識と技術、ノウハウについて学ぶ。 美容技術の総合的理解に到達する。		
授業の内容	頭部、顔面、特殊技術を組み合わせて調和のとれた美容技術を完成させるために総合的技術を学ぶ。理論・実習・その他の課目において学習した内容は、それぞれが相互に関係して現場で体现されるべきものである。そのために、作品をデザインし、創作することにより、学習した内容を統合的に考えさせる。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
カウンセリング	1年／4月	30
スタイリング	5月	80
メイク	6月	60
ネイル	7月	30
着付け	8月	35
エステティック	9月	35 / 270
サロンワーク	2年／4月	30
カット基礎	10月	100
商品知識	11月	20
カラーリング	1月	30 / 450

専任教員の 実務経験等	美容主任	—	美容師実務経験 12年 0月	(管理美容師)
	美容コース長	—	美容師実務経験 9年 3月	(管理美容師)
	教員 1	—	美容師実務経験 3年 0月	
	教員 2	—	美容師実務経験 3年 6月	
	教員 3	—	美容師実務経験 3年 0月	
	教員 4	—	美容師実務経験 6年 11月	
	教員 5	—	美容師実務経験 3年 9月	(管理美容師)
	教員 6	—	美容師実務経験 9年 7月	
	教員 7	—	美容師実務経験 15年 3月	(管理美容師)

美容科

トータルビューティーコース

[必修課目] 関係法規・制度

単 位 数	1単位	時 間 数	30時間以上
履修学年	1 年	担当教員名	高月秀人 他
授業の方法	講 義	実務経験有する教員配置	な し
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教 科 書	日本理容美容教育センター発行教科書		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		
授業内容	理容・美容に関する衛生法規と理容師法・美容師法についての正しい知識を学ぶ。理容・美容の業務と保健所の関係を理解させ、理容所・美容所衛生措置ならびに理容師美容師の業務内容を社会的責務と倫理規範の観点から具体的に理解させる。		

授業計画		開始予定月	時間数／累積時間数
第1章 法制度の概要	社会生活における法の役割	1 年 / 4 月	1
	法の形式		1
	衛生法期の概要	5 月	2
	理容師法・美容師法と附属法令		2 / 6
第2章 衛生行政の概要	衛生行政の意義と歴史	6 月	2
	衛生行政の分類と生活衛生行政の内容		2
	衛生行政を担う行政機関	7 月	1 / 11
第3章 理容師法・美容師法	目的	9 月	2
	用語の定義	1 0 月	2
	人(理容師・美容師)に関する規定		3
	施設(理容所・美容所)に関する規定	1 1 月	3
	立入検査と環境衛生監視員	1 2 月	3
	違反者等に対する行政処分	1 月	2
	罰則		2 / 28
第4章 関連法規		2 月	2 / 30

担当教員の 実務経験等	
----------------	--

[必修課目] 衛生管理

単位数	3単位	時間数	90時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	岡 正恒 他
授業の方法	講 義	実務経験有する教員配置	な し
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課程の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		
授業の内容	理容所・美容所において、公衆衛生・環境衛生と業務的関連、衛生措置、注意すべき感染症、消毒の意義と具体的な消毒法を学ぶ。理容所・美容所の衛生措置ならびに理容師美容師としてなすべき業務内容を社会的責務と倫理規範の観点から具体的に理解させる。		

授業計画		開始予定月	時間数／累積時間数
第1編 公衆衛生	公衆衛生の概要	2年／4月	7
	保健	5月	8 / 15
第2編 環境衛生	環境衛生	6月	6
	国家試験まとめ	7月～	9 / 30
第3編 感染症	感染症の総論	1年／4月	20
	感染症の各論	6月	20 / 70
第4編 衛生管理技術	消毒法総論	9月	6
	消毒法各論	10月	6
	消毒法実習	12月	6
第5編 衛生管理の 実践例	理・美容所における衛生管理要領	1月	1
	理・美容所の自主管理点検表	2月	1 / 90

担当教員の 実務経験等	
----------------	--

[必修課目] 保 健

単 位 数	3単位	時 間 数	90時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	嶋田 義弘 他
授業の方法	講 義	実務経験有する教員配置	な し
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教 科 書	日本理容美容教育センター発行教科書		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		
授業の内容	理容所・美容所において、安全で効果的な施術を行うために必要な人体、皮膚、毛髪等の組織構造と生理機能を学ぶ。特に施術においては重要な頭部及び皮膚、毛髪について理論的理解を深め、理容所・美容所において的確な施術に繋がるよう習得する。		

授業計画		開始予定月	時間数／累積時間数
第1編 人体の構造および機能	頭部、顔部、頸部の体表解剖学	1 年／ 4 月	6
	骨格器系	5 月	6
	筋系	6 月	6
	神経系		6
	感覚器系	7 月	4
	血液・循環器系		4
	呼吸器系	9 月	6
	消化器系	1 0 月	8 / 46
第2編 皮膚科学	皮膚の構造	1 0 月	6
	皮膚付属器官の構造	2 月	8 / 60
	皮膚の循環系と神経系	2 年／ 4 月	4
	皮膚と皮膚付属器官の生理機能	6 月	4
	皮膚と皮膚付属器官の保健	9 月	4
	皮膚と皮膚付属器官の疾患	9 月	4
	国家試験まとめ	1 0 月～	14 / 90

担当教員の 実務経験等	
----------------	--

[必修科目] 化粧品化学

単位数	2単位	時間数	60時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	阿部 泰之 他
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課程の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		
授業の内容	理容所・美容所において必要な化粧品の種類や使用目的、成分について学ぶ。業務を行なうに当たって科学的な知識を習得する。		

授業計画		開始予定月	時間数／累積時間数
第1編 化粧品総論			
第1章 化粧品総論	化粧品とは 化粧品の造形 化粧品の効果と使用プロセス	1年／4月	1 2 ／3
第2章 化粧品使用時に 気をつけること	化粧品使用によるトラブル 化粧品の定義と法規制 化粧品の安全性と安定性		1 2 1 ／7
第3章 化粧品の成り立ち	化粧品の成り立ち 水と親水性溶媒 油性原料 界面活性剤 高分子化合物 色材 香料 製品を安定させる配合原料 その他の機能性配合原料 雑貨原料 まとめ	5月 6月 9月 10月 10月 11月	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 13 ／30
第2編 化粧品各論			
第1章 スキンケア製品	化粧品の効果と使用プロセス クレンジング用化粧品 コンディショニング用化粧品 トリートメント用化粧品	2年／4月	2 2 2 2 ／38
第2章 メイクアップ製品	メイクアップ製品の種類と剤形 ベースメイクアップ化粧品 ポイントメイクアップ化粧品 アイメイクアップ製品 まつ毛ケア製品 ネイルメイクアップ製品 ネイルケア製品 ヘアクレンジング用化粧品 ヘアコンディショニング用化粧品 ヘアスタイリング料 パーマ剤 ヘアカラー製品 スキャブケア製品 国家試験まとめ	5月 6月 11月～	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 26 ／60
			90
担当教員の 実務経験等			

[必修課目] 文 化 論

単 位 数	2単位	時 間 数	60時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	田中 勉 他
授業の方法	講 義	実務経験有する教員配置	な し
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教 科 書	日本理容美容教育センター発行教科書		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		
授業の内容	ファッションと服飾の変遷、造形や色彩の原理とその心理的関わりを学ぶ。理容・美容業務を行なう上で、よりすぐれた人間美の創造が最終的な目標であり、その実現のため洗練された美的感覚と豊かな感性および確かな技術力は欠かせない。この素養を養うことを習得目的とする。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
第1章 総 論	1 年／9 月	1
第2章 日本の理容業・美容業の歴史		1
理容業・美容業の発生		1
江戸時代の理容業・美容業		1
近代の理容業・美容業		1
現代の理容業・美容業		1
日本の理容業・美容業の歴史年表		1
第3章 ファッション文化史 日本編		1
縄文・弥生・古墳時代	1 0 月	2
古代	1 1 月	2
中世	1 月	2
近世	2 月	2
近代	2 年／4 月	8
現代	5 月	8
国家試験まとめ	6 月～	8
第4章 ファッション文化史 西洋編		6
古代	1 年／4 月	2
中世		2
近世	5 月	2
近代		2
現代	6 月	2
第5章 礼装の種類		
和装の礼装		2
洋装の礼装		2

／60

担当教員の 実務経験等	
----------------	--

[必修課目] 運営管理

単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	1年	担当教員名	北村 宣幸 他
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		
授業の内容	将来において理容所・美容所を経営する際の科学的な経営管理の方法と、適切な接客について学ぶ。健全な理容業・美容業の経営に役立て、またサービス業において接客業務がいかに重要かを認識させ、消費者対応の基本と実践を身につけさせる。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
第1編 経営者の視点		
第1章 経営とは・経営者とは	1年／4月	2
第2章 理容業・美容業の経営について		2
第3章 資金の管理	5月	3 / 7
第2編 人という資源 従業員としての視点		
第1章 人という資源	6月	3
第2章 従業員としての視点から	9月	10
第3章 健康・安全な職場環境の実現	12月	4 / 17
第3編 顧客のために		
第1章 サービス・デザイン	1月	2
第2章 サービス・マーケティング	2月	2
第3章 サービスにおける人の役割	3月	2 / 30

担当教員の 実務経験等	
----------------	--

[必修課目] 美容技術理論

単位数	5単位	時間数	150時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	美容科教員
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	有り:美容師として
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
到達目標	美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、美容師国家試験合格基準に到達する。		
授業の内容	美容器具類においては適切な操作、衛生的管理方法を学ぶ。美容技術においては衛生的且つ能率的技術を行なうための理論を学ぶ。理論的根拠を明らかにし、施術につなげられるよう習得する。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
序章 美容技術理論を学ぶにあたって	1年／4月	6
1章 美容用具	5月	8
2章 シャンプーイング	6月	8
3章 ヘアデザイン	7月	8
4章 ヘアカットイング	9月	8
5章 パーマネントウェービング	11月	8
6章 ヘアセッティング	1月	8
7章 ヘアカラーリング	2月	6 / 60
8章 エステティック	2年／4月	14
9章 ネイル技術	5月	12
10章 メイクアップ	6月	14
11章 日本髪	7月	14
12章 着付けの理論と技術	9月	12
国家試験まとめ	10月	24 / 150

専任教員の 実務経験等	美容主任	—	美容師実務経験 12年 0月	(管理美容師)
	美容コース長	—	美容師実務経験 9年 3月	(管理美容師)
	教員 1	—	美容師実務経験 3年 0月	
	教員 2	—	美容師実務経験 3年 6月	
	教員 3	—	美容師実務経験 3年 0月	
	教員 4	—	美容師実務経験 6年 11月	
	教員 5	—	美容師実務経験 3年 9月	(管理美容師)
	教員 6	—	美容師実務経験 9年 7月	
	教員 7	—	美容師実務経験 15年 3月	(管理美容師)

[必修科目] 美容実習

単 位 数	30単位	時 間 数	900時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	美容科教員 他
授業の方法	実 習	実務経験有する教員配置	有り:美容師として
成績評価の方法	【定期試験】結果 による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教 科 書	日本理容美容教育センター発行教科書		
到達目標	美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、美容師国家試験合格基準に到達する。		
授業の内容	顧客の要望に応じた技術提供ができるよう、基本的技術を総合的に学ぶ。美容業務を効果的に実施できるよう技術を習得させる。器具の消毒などの衛生管理を同時に行い、安全のもとで提供できるようにする。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
第1章 シャンプーイング	1 年／ 4 月	30
第2章 ヘアカッティング		20
第3章 パーマネントウェービング		40
第4章 ヘアセッティング		40
第5章 ヘアカラーリング		20
国家試験課題	通年	240 / 390
第6章 エステティック	2 年／ 4 月	40
第7章 ネイル技術		30
第8章 メイクアップ		20
第9章 着付け技術		40
国家試験課題	通年	380 / 900

専任教員の 実務経験等	美容主任	—	美容師実務経験 1 2 年 0 月	(管理美容師)
	美容コース長	—	美容師実務経験 9 年 3 月	(管理美容師)
	教員 1	—	美容師実務経験 3 年 0 月	
	教員 2	—	美容師実務経験 3 年 6 月	
	教員 3	—	美容師実務経験 3 年 0 月	
	教員 4	—	美容師実務経験 6 年 1 1 月	
	教員 5	—	美容師実務経験 3 年 9 月	(管理美容師)
	教員 6	—	美容師実務経験 9 年 7 月	
	教員 7	—	美容師実務経験 1 5 年 3 月	(管理美容師)

[選択課目] ビジネス教養

単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	1年	担当教員名	常勤教員 他
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】【検定結果】等によ	成績評価の基準	優・良・可・不可
教科書	SBS接遇・マナーディレクター定3級テキスト、新聞、SNS関連、ニュース等		
到達目標	社会生活における情報を理解し、自身の見解や判断を持って行動できる社会性を持つことを目指す。		
授業の内容	理容・美容業界でのビジネスマナー、接客において必要となる一般常識や社会情勢などの教養を幅広く身につける。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
第1章 社会人としての基本	1年／4月	4
第2章 正しい動作	5月	5
第3章 言葉遣い（接遇マナー検定）	6月	7
第4章 接客の基本（新常識）	9月	5
第5章 電話対応の基礎	11月	3
第6章 一般常識・各種マナー	12月	4
第7章 履歴書の書き方	1月	2 / 30

担当教員の 実務経験等	
----------------	--

〔選択課目〕 デッサン

単 位 数	1単位	時 間 数	30時間以上
履修学年	1 年	担当教員名	北村 宣幸 他
授業の方法	講 義	実務経験有する教員配置	な し
成績評価の方法	作画及び取組み状況	成績評価の基準	優・良・可・不可
教 科 書	日本理容美容教育センター発行教科書に基づく資料		
到達目標	理容所・美容所において、顧客に対しヘアデザインの提供ができるよう実践的にイメージ創作をおこなうことに到達する。		
授業の内容	理容・美容における造形の意義と応用について学ぶ。デッサンの基礎からヘアデザイン画まで学ぶ。人体および頭部の造形バランスを把握し、それが心理面に及ぼす効果を学習し描き方の基本から、実際のデッサン技法を理解する。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
鉛筆の使い方	1 年／ 4 月	4
人体のプロポーション	5 月	4
顔の部分練習	6 月	4
顔の描き方		4
角度の変化による顔形	9 月	4
ヘアの描き方	10 月	2
ヘアスタイルによるイメージの違い	1 月	4
同じ顔でイメージを変える	2 月	4
		／30

担当教員の 実務経験等	
----------------	--

[選択課目] ライセンスセミナー

単位数	2単位	時間数	60時間以上
履修学年	2年	担当教員名	常勤教員 他
授業の方法	演習	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	演習の得点による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教科書	教育センター発行 ワークブックおよび国家試験過去問題		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の総仕上げとし、理容師美容師国家試験に対する合格基準に到達する。		
授業の内容	関係法規・制度、衛生管理、保健、香粧品化学、文化論、運営管理、技術理論の過去問題を集中的に演習し、視聴覚機材を有効に活用することで理解を深めさせる。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
関係法規・制度	国家試験 対策の為 随時	5
運営管理		5
衛生管理		
・公衆衛生・環境衛生		5
・感染症		5
・衛生管理技術		5
保健		
・人体の構造および保健		5
・皮膚科学		5
香粧品化学		5
文化論		5
技術理論		15 / 60

担当教員の 実務経験等	
----------------	--

〔選択課目〕 カラーコーディネイト

単 位 数	1単位	時 間 数	30時間以上
履修学年	2 年	担当教員名	遠山 敦子 他
授業の方法	講 義	実務経験有する教員配置	な し
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教 科 書	パーソナルカラーリスト検定 3級公式テキスト		
到達目標	「自分色」を的確に見出す力を養い、生活や仕事に取り入れる事ができる知識とセンスを習得ことに到達する		
授業の内容	美容、ファッション、ブライダルなどデザインの分野と色彩とは密接な関係であり、重要な役割を果たしている。美容師を目指す上で、肌や髪色の基礎を知り、色の性質と本質を理解しその人の魅力を最大限に引き出す。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
1 色彩と文化	1 年／4 月	2
2 色彩理論	5 月	3
色の仕組みと表色系	6 月	4
色の感情効果	7 月	4
配色効果	9 月	4
3 ファッション概論	10 月	4
4 ブライダルと色彩	11 月	2
5 パーソナルカラー	1 月	4
6 検定演習	2 月	3 /30

担当教員の 実務経験等	
----------------	--

[選択課目] ブライダル

単 位 数	1単位	時 間 数	30時間以上
履修学年	2 年	担当教員名	中嶋 彩乃 他
授業の方法	講 義	実務経験有する教員配置	有り:美容師として
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教 科 書	日本理容美容教育センター発行教科書		
到達目標	美容総合技術の基本理解と、現状把握をし専門的知識に到達する。		
授業の内容	ブライダルに関する総合的知識を身につける。衣装や小物の名称、結婚式に必要な基礎知識を学ぶ。かつらやウェディングドレスのフィッティング、ウェディングにふさわしいヘア、ブーケ・ブートニアなどの成り立ちと技術的理論を学ぶ。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
1 結婚式の様式	1年／4月	3
2 衣装・小物の名称	5月	5
3 結婚の基礎知識	6月	5
4 かつらの扱い方		5
5 ブライダルヘアの展示・実技	9月	5
6 ブーケ・ブートニアの展示・実技	10月	4
7 ドレスフィッティング・アクセサリーの取り扱い方	1月	3 / 30

専任教員の 実務経験等	美容主任	—	美容師実務経験	12年	0月	(管理美容師)
	美容コース長	—	美容師実務経験	9年	3月	(管理美容師)
	教員 1	—	美容師実務経験	3年	0月	
	教員 2	—	美容師実務経験	3年	6月	
	教員 3	—	美容師実務経験	3年	0月	
	教員 4	—	美容師実務経験	6年	11月	
	教員 5	—	美容師実務経験	3年	9月	(管理美容師)
	教員 6	—	美容師実務経験	9年	7月	
	教員 7	—	美容師実務経験	15年	3月	(管理美容師)

[選択課目] トータルビューティー総合技術

単位数	14単位	時間数	420時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	美容科教員 他
授業の方法	実 技	実務経験有する教員配置	有り:美容師として
成績評価の方法	技術理解・修得度による	成績評価の基準	優・良・可・不可
教科書	独自教材		
到達目標	総合美容技術についての幅広い知識と技術、ノウハウについて学ぶ。 総合美容技術の総合的理解に到達する。		
授業の内容	頭部、顔面、特殊技術を組み合わせて調和のとれた美容技術を完成させるために総合的技術を学ぶ。理論・実習・その他の課目において学習した内容は、それぞれが相互に関係して現場で体现されるべきものである。そのために、作品をデザインし、創作することにより、学習した内容を統合的に考えさせる。カウンセリング、フラワーコーディネート、商品知識など多岐にわたり学習する。		

授業計画	開始予定月	時間数／累積時間数
カウンセリング	1年／ 4月	30
スタイリング	5月	80
メイク	6月	60
ネイル	7月	30
着付け	8月	35
エステティック	9月	35 / 270
サロンワーク	2年／ 4月	30
カット基礎	1 0月	70
商品知識	1 1月	20
カラーリング	1月	30 / 420

専任教員の 実務経験等	美容主任	—	美容師実務経験 1 2年 0月	(管理美容師)
	美容コース長	—	美容師実務経験 9年 3月	(管理美容師)
	教員 1	—	美容師実務経験 3年 0月	
	教員 2	—	美容師実務経験 3年 6月	
	教員 3	—	美容師実務経験 3年 0月	
	教員 4	—	美容師実務経験 6年 1 1月	
	教員 5	—	美容師実務経験 3年 9月	(管理美容師)
	教員 6	—	美容師実務経験 9年 7月	
	教員 7	—	美容師実務経験 1 5年 3月	(管理美容師)

客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料

学 校 名	岡山県理容美容専門学校
設置者 名	学校法人 岡山理容美容学園

1 対象学科

理容科	
美容科	美容コース
	トータルビューティーコース

2 概 要

[指標の算出方法]

理容科、美容科美容コース、美容科トータルビューティーコースのそれぞれにおいて年間を通して定期試験等で採点をおこない、全履修課目の合計得点をもって各学生の成績として順位づけをおこない、成績の分布状況を把握する。

[客観的指標の適切な実施状況]

前期・後期毎に、各コースの総学生数から退学・休学の学生数をのぞいた学生数を4で除して整数として完全に下位1/4に当てはまる学生を警告の対象とする。年間を通して定期試験をおこない、学科ごと（コースごと）に全履修課目での総得点をもって学生個人の成績として順位を出し、成績の分布状況を把握している。

①定期試験回毎、②前期（4月～9月）終了時点、③後期（10月～3月）終了時点④学年終了時点（4月～3月）において集計し、①～④の結果を学生に対し成績評価として示している。

*本試験をもって成績分布を把握するものであり、進級・卒業の為におこなう再試験の結果は成績分布に反映させない

集 計	期 間	成績分布が下位 1/4 の場合
②前期	4月～9月	<u>後期</u> において “ 警告 ”
③後期	10月～3月	<u>次年度の前期</u> において “ 警告 ”

3 公表方法

本書を本校にて自由閲覧とする。

4 分布状況を示す表作成方法

～ 別表参照 ～

客観的な指標の算出方法

退学・休学

退学・休学

学年	退学	休学	合計
1	1	1	2
2	1	1	2
3	1	1	2
4	1	1	2
5	1	1	2
6	1	1	2
7	1	1	2
8	1	1	2
9	1	1	2
10	1	1	2
11	1	1	2
12	1	1	2
13	1	1	2
14	1	1	2
15	1	1	2
16	1	1	2
17	1	1	2
18	1	1	2
19	1	1	2
20	1	1	2
21	1	1	2
22	1	1	2
23	1	1	2
24	1	1	2
25	1	1	2
26	1	1	2
27	1	1	2
28	1	1	2
29	1	1	2
30	1	1	2
31	1	1	2
32	1	1	2
33	1	1	2
34	1	1	2
35	1	1	2
36	1	1	2
37	1	1	2
38	1	1	2
39	1	1	2
40	1	1	2
41	1	1	2
42	1	1	2
43	1	1	2
44	1	1	2
45	1	1	2
46	1	1	2
47	1	1	2
48	1	1	2
49	1	1	2
50	1	1	2
51	1	1	2
52	1	1	2
53	1	1	2
54	1	1	2
55	1	1	2
56	1	1	2
57	1	1	2
58	1	1	2
59	1	1	2
60	1	1	2
61	1	1	2
62	1	1	2
63	1	1	2
64	1	1	2
65	1	1	2
66	1	1	2
67	1	1	2
68	1	1	2
69	1	1	2
70	1	1	2
71	1	1	2
72	1	1	2
73	1	1	2
74	1	1	2
75	1	1	2
76	1	1	2
77	1	1	2
78	1	1	2
79	1	1	2
80	1	1	2
81	1	1	2
82	1	1	2
83	1	1	2
84	1	1	2
85	1	1	2
86	1	1	2
87	1	1	2
88	1	1	2
89	1	1	2
90	1	1	2
91	1	1	2
92	1	1	2
93	1	1	2
94	1	1	2
95	1	1	2
96	1	1	2
97	1	1	2
98	1	1	2
99	1	1	2
100	1	1	2

下位1/4とは... 7/50

退学・休学

退学・休学

学年	退学	休学	合計
1	1	1	2
2	1	1	2
3	1	1	2
4	1	1	2
5	1	1	2
6	1	1	2
7	1	1	2
8	1	1	2
9	1	1	2
10	1	1	2
11	1	1	2
12	1	1	2
13	1	1	2
14	1	1	2
15	1	1	2
16	1	1	2
17	1	1	2
18	1	1	2
19	1	1	2
20	1	1	2
21	1	1	2
22	1	1	2
23	1	1	2
24	1	1	2
25	1	1	2
26	1	1	2
27	1	1	2
28	1	1	2
29	1	1	2
30	1	1	2
31	1	1	2
32	1	1	2
33	1	1	2
34	1	1	2
35	1	1	2
36	1	1	2
37	1	1	2
38	1	1	2
39	1	1	2
40	1	1	2
41	1	1	2
42	1	1	2
43	1	1	2
44	1	1	2
45	1	1	2
46	1	1	2
47	1	1	2
48	1	1	2
49	1	1	2
50	1	1	2
51	1	1	2
52	1	1	2
53	1	1	2
54	1	1	2
55	1	1	2
56	1	1	2
57	1	1	2
58	1	1	2
59	1	1	2
60	1	1	2
61	1	1	2
62	1	1	2
63	1	1	2
64	1	1	2
65	1	1	2
66	1	1	2
67	1	1	2
68	1	1	2
69	1	1	2
70	1	1	2
71	1	1	2
72	1	1	2
73	1	1	2
74	1	1	2
75	1	1	2
76	1	1	2
77	1	1	2
78	1	1	2
79	1	1	2
80	1	1	2
81	1	1	2
82	1	1	2
83	1	1	2
84	1	1	2
85	1	1	2
86	1	1	2
87	1	1	2
88	1	1	2
89	1	1	2
90	1	1	2
91	1	1	2
92	1	1	2
93	1	1	2
94	1	1	2
95	1	1	2
96	1	1	2
97	1	1	2
98	1	1	2
99	1	1	2
100	1	1	2

下位1/4とは... 20/81

退学・休学

退学・休学

学年	退学	休学	合計
1	1	1	2
2	1	1	2
3	1	1	2
4	1	1	2
5	1	1	2
6	1	1	2
7	1	1	2
8	1	1	2
9	1	1	2
10	1	1	2
11	1	1	2
12	1	1	2
13	1	1	2
14	1	1	2
15	1	1	2
16	1	1	2
17	1	1	2
18	1	1	2
19	1	1	2
20	1	1	2
21	1	1	2
22	1	1	2
23	1	1	2
24	1	1	2
25	1	1	2
26	1	1	2
27	1	1	2
28	1	1	2
29	1	1	2
30	1	1	2
31	1	1	2
32	1	1	2
33	1	1	2
34	1	1	2
35	1	1	2
36	1	1	2
37	1	1	2
38	1	1	2
39	1	1	2
40	1	1	2
41	1	1	2
42	1	1	2
43	1	1	2
44	1	1	2
45	1	1	2
46	1	1	2
47	1	1	2
48	1	1	2
49	1	1	2
50	1	1	2
51	1	1	2
52	1	1	2
53	1	1	2
54	1	1	2
55	1	1	2
56	1	1	2
57	1	1	2
58	1	1	2
59	1	1	2
60	1	1	2
61	1	1	2
62	1	1	2
63	1	1	2
64	1	1	2
65	1	1	2
66	1	1	2
67	1	1	2
68	1	1	2
69	1	1	2
70	1	1	2
71	1	1	2
72	1	1	2
73	1	1	2
74	1	1	2
75	1	1	2
76	1	1	2
77	1	1	2
78	1	1	2
79	1	1	2
80	1	1	2
81	1	1	2
82	1	1	2
83	1	1	2
84	1	1	2
85	1	1	2
86	1	1	2
87	1	1	2
88	1	1	2
89	1	1	2
90	1	1	2
91	1	1	2
92	1	1	2
93	1	1	2
94	1	1	2
95	1	1	2
96	1	1	2
97	1	1	2
98	1	1	2
99	1	1	2
100	1	1	2

下位1/4とは... 3/12

卒業の認定に関する方針

理容師法養成施設指定規則、美容師法養成施設指定規則に定められた教科課目および単位数に対し、数値化した成績考査（定期試験等）を実施した上で単位を与え、履修時間の条件を満たした学生に卒業を認定するものとしている。

また、履修が十分でない場合においても、欠席が必要履修時間数（学科では1／3、実習を伴う課目1／5）以上となるよう補講補習を行った上で卒業を認めている。

財産目録

1. 資産総額	2,839,218,198 円	Ⅱ 流動負債	114,917,700 円
Ⅰ 基本財産	700,638,905 円	未払金	19,165,200 円
Ⅱ 運用財産	2,138,579,293 円	前受金	95,111,500 円
2. 負債総額	117,077,700 円	仮受金	641,000 円
Ⅰ 固定負債	2,160,000 円		
Ⅱ 流動負債	114,917,700 円		
3. 純資産(1-2)	2,722,140,498 円		

上記は令和7年3月31日現在における当学校法人の財産目録である。
令和 7 年 6 月 10 日

内 訳

1. 資産総額	2,839,218,198 円
Ⅰ 基本財産	700,638,905 円
土地	316,613,354 円
建物	365,067,661 円
構築物	534,221 円
機器備品	16,191,229 円
図書	2,232,440 円
Ⅱ 運用財産	2,138,579,293 円
施設設備引当特定資産	24,306,027 円
減価償却引当特定資産	847,262,027 円
退職給与引当特定資産	21,574,009 円
電話加入権	112,424 円
有価証券	858,830,517 円
現金預金	385,393,956 円
前払金	1,100,333 円
2. 負債総額	117,077,700 円
Ⅰ 固定負債	2,160,000 円
退職給与引当金	2,160,000 円

(学)岡山理容美容学園

理事長 岡田 浩明 (印)

第1号議案

令和6年度業務について

1 令和6(2024)年度生 在籍状況(2025年3月31日現在)

〈昼間課程〉		1年	2年	計	定員	充足率
理容科		18(0)	15(1)	33(1)	80	41.3%
美容科	美容コース	90(1)	91(3)	181(4)	280	89.3%
	T Bコース	36(2)	33(0)	69(2)		
合 計		144(3)	139(4)	283(7)	360	78.6%

※()内は休学者数

〈通信課程〉		24期	23期	22期	計	21期卒
秋入学 通常コース	理容科	10	6	8	24	13
	美容科	20	25	17	62	31
	合 計	30	31	25	86	44

春入学 修得者コース		理容科	美容科	計	卒業数
2018(H30)		4	4	8	R1秋 8
2019(H31)		12	2	14	R2秋 13
2020(R2)		9	5	14	R3秋 14
2021(R3)		14	8	22	R4秋 22
2022(R4)		10	1	11	R5秋 11
2023(R5)		2	1	3	R6秋 3
2024(R6)		7	3	10	

※2025(R7)理5・美5

2 国家試験

〈第50回〉通信課程21期 実技：R6.8/1(木) 筆記：R6.9/1(日)

	受験者数	合格者数	合格率	全国合格率
理容	16(17)	13(17)	81.3%(100%)	70.8%(74.0%)
美容	33(31)	23(26)	69.7%(83.9%)	55.0%(59.7%)

※()内は前年度(第48回)

〈第51回〉昼間課程R7.3月卒 実技：R7.2/3(月)～5(水) 筆記：R7.3/2(日)

	受験者数	合格者数	合格率	全国合格率
理容	12(12)	11(11)	92.9%(91.7%)	82.3%(81.9%)
美容	121(112)	118(110)	97.5%(98.2%)	88.1%(86.5%)

※()内は前年度(第49回)

3 学生募集・広報・入試状況

(1) 令和6年度 体験入学・オープンキャンパス等 ※()内は前年度

・体験入学 ①4/20(土)【64名】・②5/11(土)【73名】・③5/25(土)【87名】・④6/8(土)【81名】
⑤6/22(土)【97名】・⑥7/6(土)【42名】・⑦7/20(土)【45名】・⑧7/27(土)【38名】
⑨8/3(土)【50名】・⑩8/17(土)【84名】・⑪8/24(土)【57名】 計 718名(598名)

・秋のオープンキャンパス ①10/5(土)【26名】・②11/9(土)【32名】・③12/14(土)【57名】
計 115名(67名)

・冬のプレ体験入学・学校見学会 ①2/8(土)【39名】・②3/1(土)【7名】・③3/25(火)【61名】
計 107名(81名)

(2) ホームページアップ回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間計
2024(R6)	8	7	8	10	8	10	10	5	8	6	4	6	90
2023(R5)	7	7	8	11	7	6	11	6	8	5	5	10	91
2022(R4)	8	8	8	13	7	9	7	7	6	4	6	12	95

(3) 昼間課程入試の合格状況

	理容科	美容科		計
		美容コース	T B コース	
A O 入試	19(18)	87(85)	47(38)	153(141)
特待生入試	1(1)	3(2)	0(1)	4(4)
一般11月入試	2(2)	2(6)	1(1)	5(9)
一般1・3月入試	2(0)	募集停止(1)	募集停止(0)	2(1)
合 計	24(21)	92(94)	48(40)	164(155)

※()内は前年度・辞退者2名(理容科A O)

4 コンテスト・コンクール

(1) 校内コンテスト

〈1年〉フォトコンテスト(5/10)

ヘアデザイン画コンテスト(5/14)

理容科：ワインディングコンテスト(11/7)

ワインディング30分コンテスト(1/29)

ドライヤーセッティングコンテスト(3/5)

美容科：浴衣総合技術コンテスト(7/11)

ワインディングコンテスト(11/7)

夜会巻きコンテスト(12/18)

コピーカットコンテスト(1/29)

留袖総合技術コンテスト(3/5)

〈2年〉KenRiBiパンフイメージコンテスト(7/10)

理容科：ミディアムカットコンテスト(7/9)

アイロンセットコンテスト(10/1)

国家試験課題コンテスト(1/21)

美容科：ワインディング・イノベーションカット・着付・メイクコンテスト(6/8)

オールウェーブセッティングコンテスト(10/1)

国家試験課題(カッティング・オールウェーブコンテスト)(1/21)

(2) 校外のコンクール

第71回岡山県理容競技大会(5/13・理容会館)

第64回岡山県美容技術コンクール(6/17・岡山国際ホテル)

第16回全国理容美容学生技術大会中国地区大会(8/21・鳥取市)

※4部門で優秀賞(全国大会出場権を獲得)

理容部門ワインディング

2年 池田 湧

理容部門クラシカルバックバリエーション

2年 高橋 直希

美容部門カット

1年 町田 理沙

ネイルアート部門

2年 中川 花

第16回全国理容美容学生技術大会(10/31・大阪市)

全国美容週間実行委員会主催「マスタースカップ2024」(11/26)

ワインディング部門(1年生)優勝 星島 礼温

5 学校行事

- 4月5日(金) 前期始業式・授業開始(2年生)
 8日(月) 第72回入学式(ビュアリティまきび)・後援会総会
 15日(月) 通信課程修得者コース24期生入所式
 17日(水) 学友会総会
 5月9日(木) KenRiBiスポーツ大会(岡山ドーム)
 21日(火)～24日(金) 定期考査①
 28日(火) 岡山市に大雨洪水警報発令のため臨時休校
 6月3日(月) 第1回評議員会・第1回理事会
 6月～7月初旬 校長面談(1年生)
 7月2日(火)～5日(金) 定期考査②
 5日(金) 第16回全国理容美容学生技術大会中国地区大会出場者激励会
 8日(月) 第2回評議員会・第2・3回理事会
 7月14日(日)～9月2日(月) 昼間課程夏季休業
 9月2日(月) 通信課程21期・修得者コース 卒業式
 21日(土) AO入試
 29日(日) 第39回学園祭(イオンモール岡山・おかやま未来ホール)
 10月1日(火) 改業式
 8日(火) 学校関係者評価委員会
 11日(金) 1年生レクレー(宝塚花組公演「エンジェリックライ」観劇)
 14日(日) 通信課程24期入学式・教育課程編成委員会
 15日(火)～18日(金) 定期考査③
 19日(土) 特待生入試
 23日(水)～25日(金) 2年生修学旅行(USJ・京都・伊勢)
 23日(水)～27日(日) 1年生実務実習
 28日(月) 中間監査
 11月4日(月) 第3回評議員会・第4回理事会
 16日(土) 一般11月入試
 12月7日(土) 11月入試合格者説明会
 10日(火)～12日(木) 定期考査④
 21日(土)～1月7日(月) 昼間課程冬季休業
 1月25日(土) 一般1月入試
 2月18日(火)～20日(木) 定期考査⑤
 24日(月) 後援会役員会・同窓会役員会・第4回評議員会・第5回理事会
 3月3日(月) 第71回卒業式(ビュアリティまきび)
 7日(金) 後期終業式
 11日(火) 理容師及び美容師養成施設の実地調査(岡山県保健医療部生活衛生課)

6 教職員研修

(1) 校内研修 (教員対象)

	実施日	講師	内容
1	6/13(木)	寺尾・中嶋・福田	国家試験対策研究(実技・筆記試験)
2	8/23(金)	寺尾	国家試験実技課題対応講座
3	12/6(金)	寺尾	第51回国家試験要項確認
4	12/25(水)	岡本・松村	即戦力養成講習会(広島)伝達
5	3/27(金)	寺尾	第51回国家試験総括

(2) 校外・県外の研修及び競技大会への参加

	実施日	参加者	内容
1	6/17(月)	寺尾	第64回岡山県美容技術コンクール(カット&ブロー)
2	8/26(月)	岡本・松村	即戦力養成講習会①(広島)
3	8/26(月)	桐山	SBSエステ指導講師研修会(東京)
4	9/9(月)	岡本・久山	S P Cビューティーコレクション2024(広島)
5	9/30(月)	岡本・久山	ネクストヘアケーション(ハレノワ)
6	10/1(火)	寺尾	トップマスターズモード(アクリエ姫路)
7	10/12(土)・13(日)	全教職員	中国地区理容美容学校施設長・校長及び教職員研修会(倉敷・グランココエ)
8	10/21(月)・28(月) 11/11(月)・12/16(月)	岡本	即戦力養成講習会②・③・④・⑤(広島)
9	11/19(火)	寺尾	全日本美容技術選手権大会(富山)カット&ブロー競技の部 第4位
10	1/20(月)	北村・福田 中嶋・寺尾	国試実技試験委員事前研修会(広島)
11	2/19(水)	岡本	岡山県専修学校各種学校振興会教育研修会(ビュアリティまきび)
12	3/4(火)・5(水) 3/12(水)～14(金) 3/27(木)・28(金)	中嶋・久山	SBSエステ講習会(東京)

監 事 監 査 報 告 書

令和7年5月19日

学校法人 岡山理容美容学園

評 議 員 会
理 事 会 御 中

学校法人 岡山理容美容学園

監 事 葉 師 寺 茂 

監 事 入 矢 武 工 

私たちは、私立学校法第37条第3項及び学校法人岡山理容美容学園寄附行為第17条の規定に基づき学校法人岡山理容美容学園の令和6年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）の業務並びに財産の状況について監査を行った。

私たちは監査にあたり、理事から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手続を実施した。

監査の結果、学校法人岡山理容美容学園の業務及び財産の状況は適切であり、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認める。

以 上